

環境報告書 2017



環境計量証明機関並びに作業環境測定機関として、社会に貢献すると共に、
環境の保全及び継続的改善、向上を着実に推進します。

平成 29 年 5 月

一般社団法人 静岡県産業環境センター

目 次

はじめに	2 頁
I 法人概要	2 頁
II 2016 年度 環境方針	3 頁
III 2016 年度 環境マネジメントシステム 組織図	4 頁
IV 2016 年度 環境管理活動の実績とその評価	
1 2016 年度 環境目的・目標	5 頁
2 2016 年度 重点管理項目	8 頁
V 2016 年度 環境関連法規の違反・訴訟・苦情等	11 頁
おわりに：2017 年度の活動に向けて	11 頁

本書では、年度の表記について、西暦と和暦を併用しています。

2016 年度を平成 28 年度と表記している箇所がありますが、その期間
は同一です。他の年度についても、同様です。

【はじめに】

当センターは 1999 年に ISO14001 環境マネジメントシステムの認証を取得し、今日まで環境管理活動を推進して継続的改善に努めています。

本書では、前年度にあたる 2016 年度（2016 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日まで）の活動実績を報告いたします。2016 年度は、電力の削減、焼却ごみの削減及び環境マインドの向上を重点とした活動を進めました。

I 法人概要 [2016 年 4 月 1 日現在]

名称	一般社団法人 静岡県産業環境センター
所在地	静岡県浜松市北区新都田一丁目 4 番 6 号
設立	1972 年（昭和 47 年）05 月 18 日
法人許可	1972 年（昭和 47 年）12 月 11 日
代表者	理事長 神谷文吾（神谷理研株式会社 代表取締役社長）
役員	理事 16 名、監事 2 名
サイト職員	52 名
認証取得	1999 年（平成 11 年）ISO14001 環境マネジメントシステム取得 テュフラインランドジャパン登録認証番号 09 104 8207

事業内容

水質部門

水質分析（工場排水、下水、河川水、湖水、海水等）／農薬分析
工業用水性状試験／ダイオキシン類、環境ホルモン分析

労働衛生部門

作業環境測定／石綿含有分析／労働衛生コンサルティング
局所排気装置検査／シックハウス関連調査

大気部門

ばい煙測定（ボイラー、焼却炉等）／有害大気汚染物質調査
ダイオキシン類測定／降下粉じん量測定／集塵機性能試験

土壌・地下水部門

土壌、地下水汚染調査／土壌ガス調査／観測井戸設置

その他

騒音、振動測定／悪臭測定／環境アセスメント／産業廃棄物試験
肥料、飼料分析／上水試験／各種環境教育／各種バリデーション

当センター全景



（正門前より撮影：裏表紙のサイト概要図参照）

II 2016年度 環境方針

静岡県産業環境センター 環境方針

わたしたちは、環境計量証明機関並びに作業環境測定機関として、永年にわたり培ってきた信頼のおける測定分析データとこれらの評価に基づく環境改善技術等を駆使し、社会に貢献すると共に、環境の保全及び継続的改善, 向上を着実に推進します。

- 1 地球環境の保全活動を円滑に推進するため、機能的な組織を設けます。
- 2 環境測定分析事業等に伴って発生する環境影響を的確に把握し、常に継続的改善を図り環境負荷低減を推進します。
- 3 環境関連法規制を遵守すると共に、より厳しい自主基準を定めて管理します。
- 4 事業活動に伴う環境負荷を低減するため、下記の事項を推進します。
 - (1) 省エネルギーの推進
 - (2) 廃棄物（産業廃棄物・一般廃棄物）のリサイクル及び低減
 - (3) 有害化学物質を使用しない手法への転換又は可能な限り取扱量を削減
 - (4) グリーン調達
- 5 事故及び緊急時の環境負荷を防ぐよう予防措置に努め、防災訓練を行います。
- 6 環境測定分析並びに環境関連教育を通し、地域の環境管理を支援します。
- 7 当法人に係るすべての人に対し、環境に関する意識の向上を図るための教育及び広報活動を行います。
- 8 環境管理の実施状況について、必要に応じて社内外に公表します。

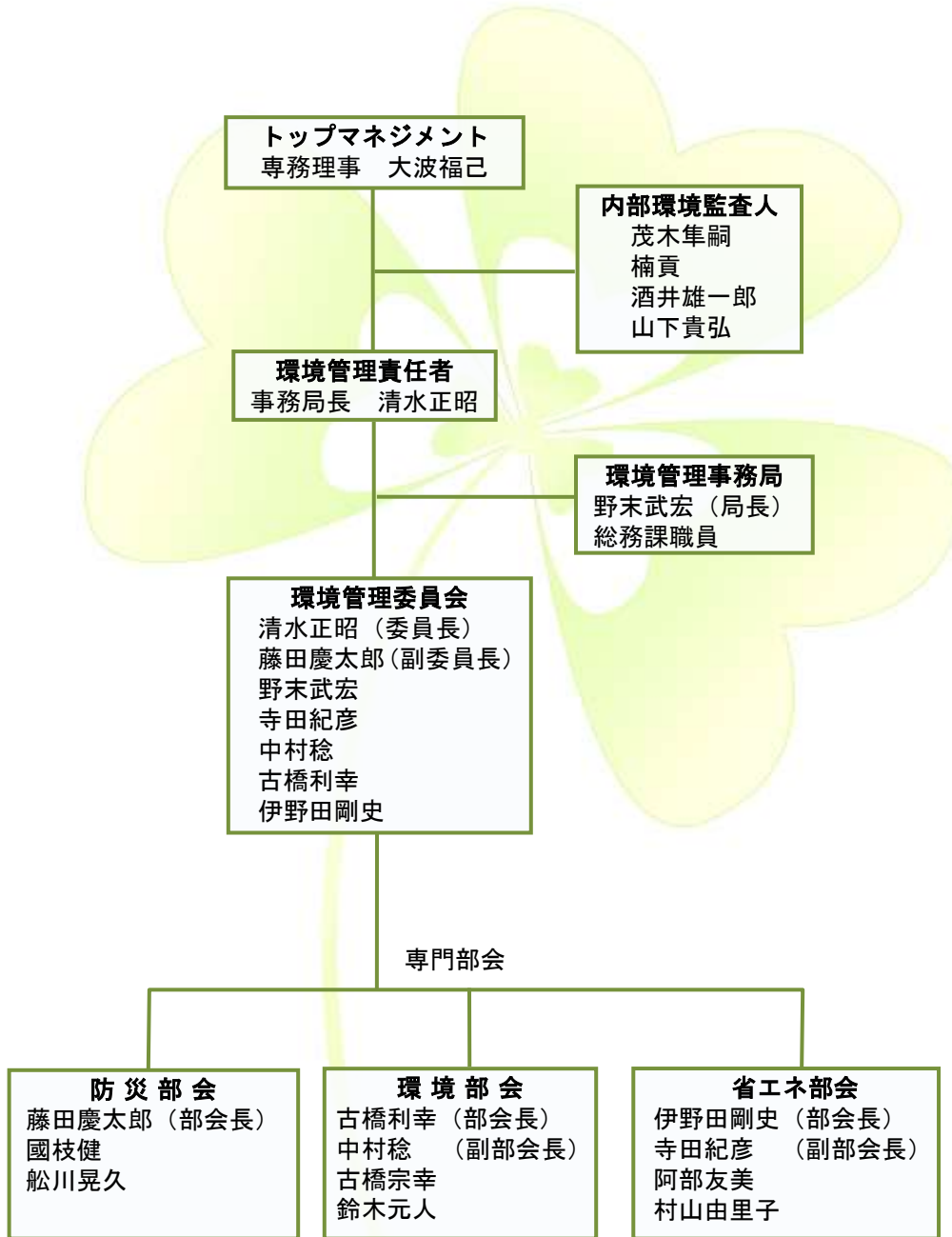
(この環境方針は、社内外に公表します。)

平成 27 年 4 月 13 日

一般社団法人 静岡県産業環境センター

専務理事 大波 福己

Ⅲ 2016 年度 環境マネジメントシステム 組織図



IV 2016 年度 環境管理活動の実績とその評価

1 2016 年度 環境目的・目標

(1) 環境目標の達成状況

目的	環境目標		達成度		平成 28 年度 実績	比較基準値
	中長期目標	短期目標	中長期	短期		
1 電力の削減		平成 26 年度の実績を超えない		未達成 1.2 % 増加	電力使用量 453,525 kwh	電力使用量 448,307 kwh
2 焼却ごみの削減	平成 30 年度までに平成 26 年度の実績の 20kg 以上削減	平成 26 年度の実績を超えない	達成	達成	焼却ごみ排出量 410 kg	焼却ごみ排出量 440 kg
3 環境マインドの向上		サイト社員に対して外部講師による環境教育を開催		達成	1 回開催	
4 会員及び取引先事業所の環境教育		騒音・振動測定実務研修会を開催		達成	1 回開催	

(2) 電力の削減

平成 28 年度の電力使用量の目標は、「平成 26 年度の実績 (448,307kwh) を超えない」という目標で節電等に取り組んできましたが、1.2%増加の 453,525kwh で目標未達成となりました。これは平成 26 年度に比べて残業時間が増加した事と、夏期の高温と多湿の日が多くなった事が大きな要因と考えています。電力使用量のデータは下表の通りです。

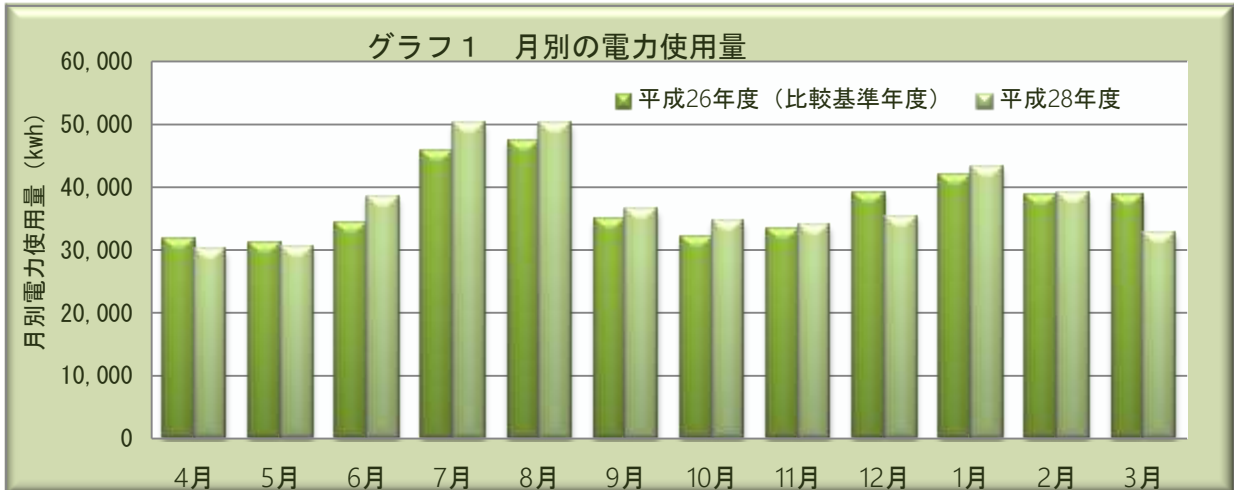
年 度	電力使用量	比較結果	短期目標値	短期目標達成度
平成 28 年度	453,525 kwh	1.2%増加	448,307 kwh	未達成

[達成手段]

- ① チラー設定温度の再見直し
- ② デマンド管理[ピーク電力を抑え、契約電力の 203kwh を超えないように、ピークスライドや設備停止で管理]
- ③ 遮光対策
- ④ 空調設定温度の見直しと管理 [設定温度の見直しと仕様温度の確認や管理]
- ⑤ 残業時の空調一時停止[17 時前に空調を切り節電を行う。温度環境により再稼働は可。]
- ⑥ 空調室内機フィルターのこまめな清掃
- ⑦ 空調補助装置の使用 [室内空気攪拌による均一化]
- ⑧ 低消費電力設備の導入 [LED 蛍光灯等の導入]

[補足データ]

月別の電力使用量を、グラフ 1 に示します。



棟別の年間電力使用量を、グラフ 2 に示します。



(3) 焼却ごみの削減

平成 27 年度より重点管理項目から焼却ごみの削減を目的として取り上げ、焼却ごみとそれ以外のごみの分別を徹底してきました。平成 27 年度の実績が 560kg で目標を未達成でしたが、平成 28 年度は焼却ごみの排出量が 410kg で目標を達成しました。

年度	焼却ごみ排出量	中長期目標	短期期目標	短期目標達成度
平成 28 年度	410 kg	平成 30 年度までに平成 26 年度の実績の 20kg 以上削減	平成 26 年度実績を超えない (440kg)	達成

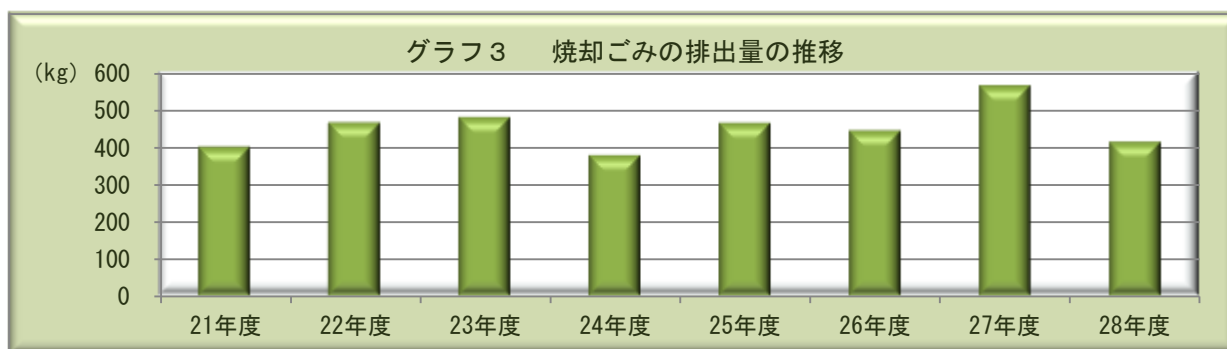
〔達成手段〕

- ① 焼却ごみとリサイクル出来るものを明確にし、焼却ごみの分別を徹底。
- ② 使用済み封筒を利用し、切り屑などの細かい紙類を入れてリサイクルに回す。

〔補足データ〕

年別の焼却ごみの排出量を、グラフ 3 に示します。

平成 21 年より焼却ごみの排出量は 370～570kg の間を推移しています。



(4) 環境マインドの向上

環境マインドの向上を目的に外部講師による環境教育を開催しました。

環境教育内容	開催日時	開催場所	参加者数
情報セキュリティと事業継続セミナー 外部講師：(株)NTTPC コミュニケーションズ 西日本支社 白井 孝明 氏	平成 28 年 8 月 29 日(月) 13:30 ~ 15:00	事務棟 2階 研修室	34 名



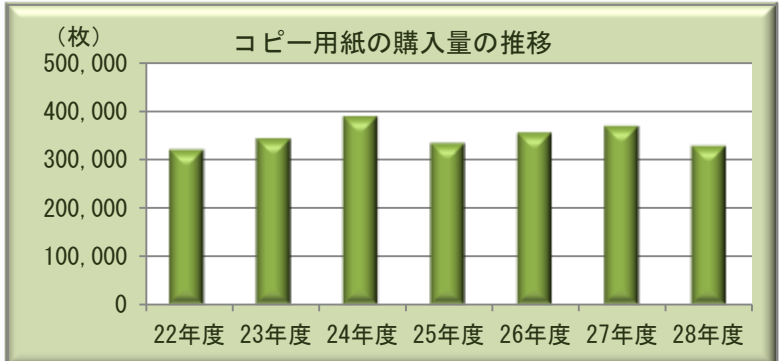

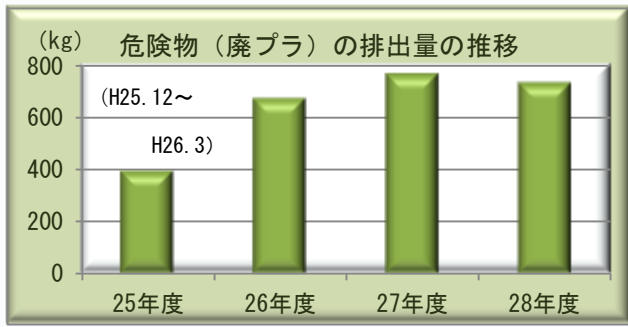
(5) 会員及び取引事業所の環境教育



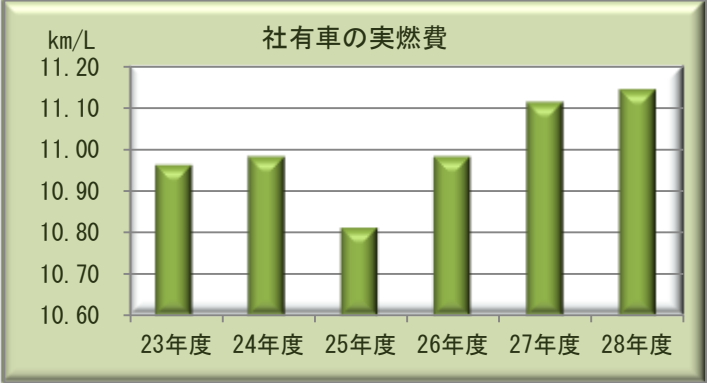

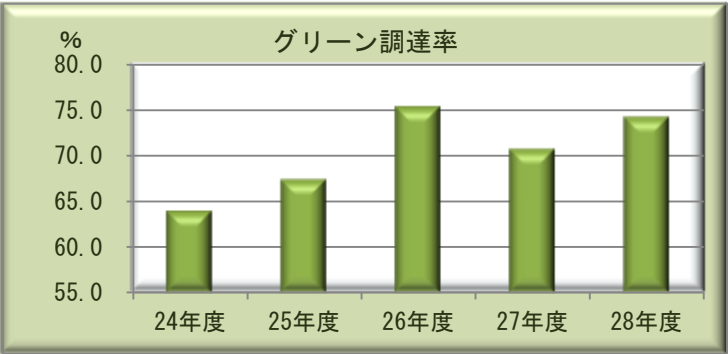
第 2 回産環セミナーとして、騒音・振動の測定実務研修会を開催しました。

環境教育内容	開催日時	開催場所	参加者数
第 2 回 産環セミナー 騒音・振動測定実務研修会	平成 28 年 9 月 16 日(金) 13:30 ~ 16:00	当センター事務棟 2階 研修室	会員 19 名 一般 4 名

2 2016年度 重点管理項目

重点管理項目	活動実績とその評価
<p>1 分析排水の下水道排出 [排水処理設備]</p> 	<p>(1) 下水排水管理手順書に基づき、技術棟から排出される分析排水を除害する排水処理設備を管理。</p> <p>① 定期水質検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回 排水規制項目 ・年2回 自主管理項目（排水処理、排水原水、活性炭処理） <p>② 定期点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常点検 ・月1回 機能点検（業者委託） <p>(2) 定期的に採水・検査し、排水基準を満足している。</p>
<p>2 分析試薬類の取扱い [毒劇物保管表示]</p> 	<p>(1) 試薬類取扱管理手順書及び毒劇物管理手順書に基づき、技術棟の分析業務で使用する試薬類を管理。</p> <p>① 試薬類の保管及び廃棄管理</p> <p>② 試薬類の取り扱い管理</p> <p>③ 毒劇物の保管場所の施錠管理</p> <p>④ 毒劇物の使用状況の記録管理</p> <p>(2) 異常はなく、適正な状態を維持。</p>
<p>3 分析室ドラフト用排ガス処理設備（スクラバー） [C棟用設備, アルカリ洗浄]</p> 	<p>(1) ドラフト用スクラバー管理手順書に基づき、技術棟A棟と技術棟C棟のドラフト排ガスを除害する排ガス処理設備を管理。</p> <p>① 定期点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回 洗浄液、ファンベルトの監視、調整 <p>(2) 異常はなく、適正な状態を維持。</p>
<p>4 ダイオキシン分析室排ガス処理設備 [B棟排気ライン, 活性炭吸着]</p> 	<p>(1) ダイオキシン分析室排ガス処理設備管理手順書に基づき、技術棟B棟のダイオキシン分析室からの排気を除害する排ガス処理設備を管理。</p> <p>① 日常点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィルター差圧の監視、異常音と振動の確認 <p>② 定期点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各稼働部の詳細点検（一部業者委託） ・排ガス中の有機溶剤、ダイオキシン類の監視測定 <p>(2) 異常はなく、適正な状態を維持。</p>

重点管理項目	活動実績とその評価
<p>5 緊急事態の対応</p> <p>[消火スプレーによる消火訓練]</p> 	<p>(1) 地震等対応手順書及び有害廃液等の緊急事態対応手順書に基づき、教育訓練を実施。</p> <p>① 防災訓練、防災教育（9月26日実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震等対応手順書の説明 ・防災教育 ・引火性廃液等の漏洩事故対応 ・避難訓練 ・班別活動訓練 <p>② 緊急通報訓練（11月28日実施）</p> <p>夜間休日時の職員への通報システムにより、抜き打ちで通報訓練を実施。伝言内容は正しく伝わっていました。</p> <p>(2) 地震等対応手順及び通報システムの管理（人員配置の整備）。</p> <p>(3) 防火管理制度の運用。</p>
<p>6 コピー用紙の使用量</p> <p>[新品と裏紙等の分別整理棚]</p> 	<p>裏紙の再使用や両面コピーを推進しています。</p>  <p>ここ数年、コピー用紙の購入量に大きな変化はありません。</p>
<p>7 危険物の排出量</p> <p>(廃プラスチック、廃ガラス、 金属くず、廃液)</p> <p>[廃プラ・金属くず回収ボックス]</p> 	<p>発泡スチロール、エアークッション、ペットボトル等のリサイクルを推進しています。</p>  <p>平成25年11月まで廃プラスチックの排出量を容積（m^3）で管理していましたが、12月より排出量を重量（kg）管理へ変更しました。平成27年度の排出量は761kgでした。それに対して、平成28年度の排出量は727kgでした。</p>

重点管理項目	活動実績とその評価														
<p>8 耐震固定 [耐震固定の例]</p> 	<p>前年度までに耐震固定の対象とならなかった設備及び新規設備に対しての耐震固定を推進しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書棚ガラス戸（事務棟1階技術者室西側）のフィルム貼りを実施。 														
<p>9 社有車の燃費 [エコドライブ宣言表示]</p> 	<p>社有車の実燃費は、各社有車の年間走行距離の総和を各社有車の年間総給油量の総和で割った値として表しています。</p>  <table border="1"> <caption>社有車の実燃費 (km/L)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実燃費 (km/L)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23年度</td> <td>10.95</td> </tr> <tr> <td>24年度</td> <td>10.98</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>10.80</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>10.98</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>11.10</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>11.15</td> </tr> </tbody> </table> <p>ここ数年大きな向上はありませんが、平成27・28年度は過年度より実燃費が向上しています。</p>	年度	実燃費 (km/L)	23年度	10.95	24年度	10.98	25年度	10.80	26年度	10.98	27年度	11.10	28年度	11.15
年度	実燃費 (km/L)														
23年度	10.95														
24年度	10.98														
25年度	10.80														
26年度	10.98														
27年度	11.10														
28年度	11.15														
<p>10 グリーン調達 [グリーン購入対象品の一例]</p> 	<p>カタログ注文の事務用品について、グリーン購入対象品の発注数を毎月集計しています。調達率は、カタログによる全事務用品注文数に対するグリーン対応事務用品の注文数の割合を表しています。</p>  <table border="1"> <caption>グリーン調達率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調達率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24年度</td> <td>64.0</td> </tr> <tr> <td>25年度</td> <td>67.0</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>70.0</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>74.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成28年度の実績は74.1%でした。平成26年度よりグリーン調達率は70%以上で推移しています。</p>	年度	調達率 (%)	24年度	64.0	25年度	67.0	26年度	75.0	27年度	70.0	28年度	74.1		
年度	調達率 (%)														
24年度	64.0														
25年度	67.0														
26年度	75.0														
27年度	70.0														
28年度	74.1														

V 2016 年度 環境関連法規の違反・訴訟・苦情等

環境関連法規に対して、違反・訴訟・苦情等はありませんでした。

環境関連法規	違反・訴訟・苦情等
下水道法（浜松市下水排除基準）	無し
水質汚濁防止法	無し
騒音規制法（静岡県環境保全条例）	無し
振動規制法（静岡県環境保全条例）	無し
大気汚染防止法（浜松市公害防止協定）	無し
悪臭防止法（浜松市公害防止協定）	無し
浜松市都市景観条例	無し
廃棄物処理法	無し

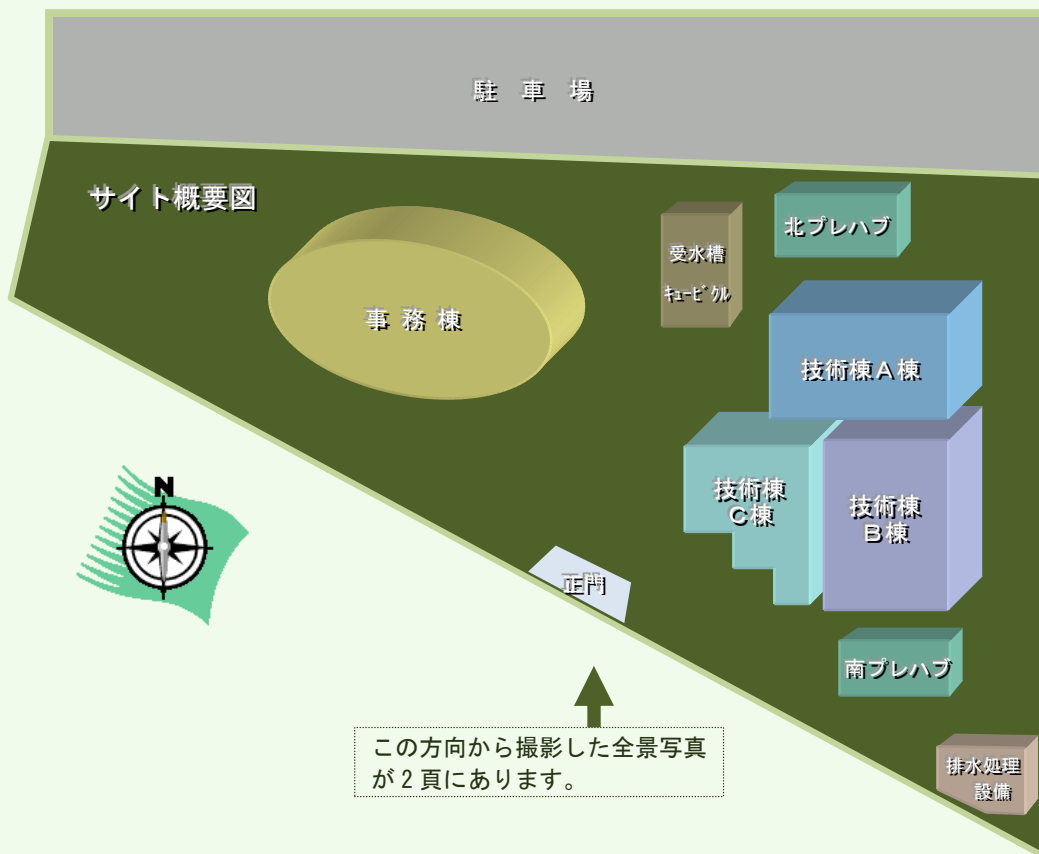
【おわりに：2017 年度の活動に向けて】

2016 年度は、電力の削減の目標が未達成となりました。目標未達成となった原因の対策を検討し、2017 年度の目標達成を目指します。2017 年度の環境目的・目標は、以下の内容で取り組みます。

電力の削減は、近年の実績と今回導入する分析装置の電力消費量の増加を加味した維持管理を中心とした目標として継続します。2016 年度の目的であった焼却ごみの削減は、重点管理項目に移行させ、管理していきます。

2017 年度（平成 29 年度） 環境目的・目標

目的	目標
1 電力の削減	年間電力使用量 49 万 kwh を超えない
2 環境マインドの向上	サイト社員に対して外部講師による環境教育を 1 回以上開催
3 会員及び取引先事業所の環境教育	騒音・振動測定実務研修会等を 1 回以上開催



環境報告書 2017

2017年（平成29年）5月22日発行

発行：一般社団法人 静岡県産業環境センター 環境管理委員会

〒431-2103 静岡県浜松市北区新都田一丁目4番6号

TEL 053 (428) 3430 FAX 053 (428) 3447

E-mail: jimukyoku@sankan.or.jp

<http://www.sankan.or.jp>

発行責任者：環境管理責任者 清水 正昭